

祝！近畿ろうきん梅田支店店舗移転記念



特別紙上対談



～全ての勤労者の笑顔のために～

JR西労組本社総支部 蒲書記長(専従) × 近畿労働金庫梅田支店 平井支店長



(蒲書記長 略歴)

1998年西日本旅客鉄道(株)入社。2004年から本社総支部青年女性委員会執行委員、分会書記長、執行委員長を経て、2010年から本社総支部企画部次長、業務部長、書記長(非専従)を経験し、2015年9月から本社総支部書記長(専従)、近畿ろうきん梅田支店の副推進委員長となり現在に至る。

(平井支店長 略歴)

1986年入庫、豊中支店、岸和田支店、大正支店、堺支店での営業担当・役席者、大東支店、天王寺支店で次長、福島支店長を経て、2017年に梅田支店長。

りまして、十三支店でも同様だと聞いていたのですが、支店が無くなることも勿論ですが、口座番号の変更についてはかなり無理を聞いていただいたのかなというのが本音です。梅田支店において

も、店舗の場所がいわゆる「東梅田」から「うめきた」となり、かなり距離感を感じられる会員さんもあり、ここもやはり、説明の際も申し訳ないという気持ちもありました。その分、3店舗が統合して、口座番号の変更や遠くなってしまったけど、よかったなと会員・組合員の皆さまに喜んでいただけるような支店にならないといけないと思っています。

梅田スカイビル

大阪、梅田の旗艦店
梅田・福島近辺で探す

蒲：なぜ、梅田スカイビルに決まったのでしょうか。

平井：やはり利便性は大切ですね。「梅田支店」となるので、梅田地域に存在していないと、梅田支店とは呼んでいただけません(笑)。会員・組合員の方々が、来ていただきやすく、かつ営業担当者が労働組合にこれまで同様にお伺いできる立地であることを重視し、さらにコスト節減のこともしっかりと押さえておく必要がありました。

その他、3店舗の職員が、できるだけひとつのフロアで業務を行える場所が、ベターだということも大切な要因です。ひとつのフロアで職員同士のコミュニケーションを密にすることによって、お客さまへのサービスの品質向上につなげたいと考えています。

あったのでしょうか。

平井：当庫は1998年に近畿一円81店舗体制でスタートし、現在60店舗体制となっています。この間、店舗に係る環境は地域の経済環境や、コンビニATMの台頭・スマートフォンによるインターネットバンキング利用の普及など、会員・お客さまのご利用環境等が変化しており、店舗維持に係る内部環境および外部環境は大きく変化しているといえます。そのような状況を踏まえ、2015～2016年にかけての会員討議を経て、2016年1月に「店舗は労金運動を継続・発展していくための重要な拠点である」ことを基調に、店舗再配置全体計画書を取りまとめました。この中で、職住が分離している大阪市内の北部エリアにて、距離の近い3店舗を統合することにより、営業体制を集約し、大阪地区の旗艦店として、職域を中心とした効率的な会員営業活動を展開することが必要との判断でした。

蒲：店舗統廃合が進む中で苦勞された点はあるのでしょうか。

平井：当時、私は福島支店に勤務してお

3店舗統合(梅田、十三、福島)を見据えて ろうきん梅田支店店舗移転

会員・組合員の方々に来て頂きやすく 更なるサービス品質向上を目指して

蒲：日頃から働く者の視点にたった金融商品のご案内、手続きからサービスまで迅速に対応頂き、心から感謝申し上げます。

平井：こちらこそ「ろうきん推進運動」にご尽力頂きありがとうございます。

蒲：昨年11月6日に太融寺にあった梅田支店が、梅田スカイビルタワーイースト5階に移転しました。JR大阪駅北側の貨物駅跡地24ha「うめきた開発」は、2024年頃街びらきが計画されており、またJR西日本が関係するものとして2023年には、東海道線支線地下化工事が終了し、新駅も開業予定されています。

日本最後の一等地である北梅田の中心に移転され、気分一新と言いつつ、今後の店舗統合はもちろん、更なる営業活動の展開へ期待が寄せられるなど、非常に大きなプレッシャーではないでしょうか。

この機会に「店舗移転」や今

後、力を特に入れていきたい営業展開などについてお聞かせ頂きたいと思っております。

効率的な会員営業活動

大阪、梅田の旗艦店として
再出発

蒲：なぜ、ろうきんの店舗移転をする必要が

